

# 真木

第 215 号

〒270-2252  
松戸市千駄堀968-5  
祐森司方  
千葉県俳句作家協会  
事務局  
TEL 047-344-4789

〒276-0042  
八千代市ゆりのき台  
3-4-1101  
前北かおる方

「真木」編集部  
TEL 090-4363-3501

## 目 次

千葉・県民芸術祭 第67回千葉県俳句大会	1
千葉県民文化祭・俳句短冊展	4
千葉県俳壇ニュース	5
結社賞、新入会員一句	6
基金御礼、受贈誌より、事務局日誌	7

## 令和七年度千葉・県民文化祭 第67回千葉県俳句大会

### 大会を終えて

第六十七回千葉県俳句大会には、皆さまから一、八四四句の応募をいただき、またジュニアの部にも県内小中学校から優れた投句があつて、十月二十六日、市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）において表彰式を開催した。当日は、市川市長田中



秋尾敏 実行委員長

甲様をはじめ多くのご来賓にご臨席をいただき、入賞者の方々を華々しく讃えることができた。また「百鳥」同人の望月周様に「大串章の作品世界 海の句を中心に」と題したご講演をいただき、「百鳥」主宰、俳人協会名誉会長の大串章様ご本人にもご来場をいただき、意義深い会となった。ご投句くださった皆様、ご臨席を賜った皆様に心よりお礼を申しあげる。

今回の大会には千葉日报社様に詳しいご取材をいただき、同紙十月三十日付けの第三面上段に、能村会長の写真とともに受賞者の作品と氏名を掲載していただいたことは有り難いことであつた。大会上位句、ジュニアの部入賞句に加えて当日俳句会の入賞句までもご掲載いただいた。感謝のほかない。

ご来場者が多かったためあつて受付に時間を要してしまつたことなど反省点もあるが、壇上に受賞者席を設けるなどの改善点もあり、運営面では一歩前進した大会になつたと考えている。お越しいただいた皆さまにお礼を申しあげる。

次年度は会場を千葉市に戻し、千葉県教育会館での開催となる。はじめての会場であるので、準備には万全を期したい。皆様からの、本年にまさるご投句をお待ち申しあげる。

実行委員長 秋尾 敏

### ◆大会記

令和七年十月二十六日、市川市生涯学習センターを会場として、県民文化祭・第六七回千葉俳句大会を開催した。本年は県都千葉市を離れて市川市での開催となった。会場となった市川市はおよそ一三〇〇年前より下総国国府として栄え、いまもその面影を一部に残している。名高い「真間の手児奈」は国府となる更に以前、万葉集も前期の高橋虫麻呂歌が伝える物語。歴史ある土地、文化栄える地であることは広く知られている。

十一時開会。秋尾敏俳句大会委員長に依る開会の辞、加瀬彰容県スポーツ・文化局文化振興副課長、能村研三俳句作家協会会長の主催者挨拶から開始した。ご来賓の千葉県芸術文化団体協議会会長吉本充様、市川市観光協会会長鈴木衛様よりご挨拶。続いて十一時三十分、ジュニアの部入賞者計二十八名の表彰式。講評を加藤峰子副会長が行った。百名を超える列席者のもと、予定に沿って進行。十二時十五分より休憩に入る。

午後は十三時過ぎから俳句大会応募作品一般の部の表彰式を挙げる。千葉県知事賞の保坂末子氏の作品「ふらここの行ったり来たりして晩年」を始め一八四句から選ばれた栄えある二十九名の入賞句が表彰された。講評を秋尾大会委員長が行った。

十四時過ぎ、俳人協会理事・「百鳥」同人の望月周様に依る「大串章の作品世界」の記念講演を頂いた。短時間で「海の句」に絞り、大串章の世界を明らかにされた。説得力ある講演だった。

続いて、もう一つのイベント当日俳句大会には八十七名が当季雑詠二句を投句されていて、そ

の披露を行った。

当日句の表彰に先立ち、大会へのご来賓挨拶を頂く。市川市長田中甲様のご挨拶の概要は――

「市内里見公園には能村研三会長の句碑を建立。ユネスコも通じ、俳句を更に世界に広めて欲しい。少ない言葉で全てを表現する日本文化としての俳句を……」

他のご来賓の言葉を紹介するスペースはないが、皆様が俳句への深いご理解を示された。更に俳句、その文化、及び光栄なことに俳句作家協会への期待を、共通して語られていた。

当日句の表彰式。市川市長賞は袖真知氏の「石に木に神の宿りて豊の秋」。上記含む十五句の作者が表彰された。また、協会の役員選者と十名の一般選者に依る特選句も表彰された。当日句の講評には能村研三会長が当たった。

俳句大会午前は石井紀美子理事長が司会をし、午後は高橋健文副理事長が担当した。

俳句の未来を確信させる盛り上がりを見せ、充実した内容で会は展開、来年度千葉での開催を告げ、秋尾大会委員長が閉会の挨拶を行った。

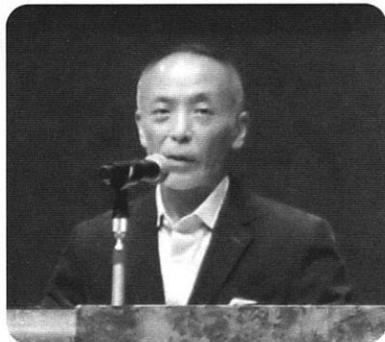
(高橋宗史記)



能村会長



壇上の来賓、役員



望月周氏の講演

千葉・県民文化祭第67回千葉県俳句大会

【一般の部】

雑詠入賞者

千葉県知事賞

ふらここの行ったり来たりして晩年

柏 保坂 末子

千葉県議会議長賞

レコードに昭和のノイズ憂国忌

千葉 徳吉洋二郎

千葉県教育長賞

水の地球その一滴の蝶生る

館山 櫻井 泰

千葉県俳句作家協会賞

夏帽の熱きを腋に合掌す

船橋 猪瀬 達朗

千葉日報社賞

黙禱の海平らかに梯梧散る

茂原 南出ひろみ

千葉市観光協会賞

柿に色残して夕日落ちにけり

船橋 石黒 一夫

千葉県俳句大会委員長賞

梯子より素足降り来る古本屋

市川 能村 研三

秀逸賞

月も日も海より生まれ沖繩忌

文京区 鶴巻貴代美

しづかなる森の心音岩清水

香取 谷本 元子

炎にも舌といふもの毛虫焼く

柏 伊藤 素広

花火果て水音だけの村となる

香取 西尾 吉正

フルートの銀の音色や夜の新樹

千葉 田村 雅子

雲は詩を小川は春の歌を生む

木更津 斎藤すず子

軽トラでプリンのとどく田植かな

藤沢 矢野みはる

半身を車掌室より青田風

千葉 清瀬 朱磨

未来とふ大きな白紙月涼し

浦安 栗原 公子

人の世に還り道なし遠花火

館山 櫛引 明江

遙かとは泰山木の花の上

流山 黒澤 雅代

逢ひたいと言はずに薔薇を見に来いと

富津 三枝かずを

佳作賞

切り株は木の名を持たず青蜥蜴

世田谷区 関戸 信治

蚊遣香しづかに刻を燻らせる

習志野 中村 世都

悠久の色をこの世に蓮開く

君津 森 孝子

唐黍のはち切れさうな音を食む

市原 五十嵐紀子

百濟より雨来る岬岩燕

鹿児島 日高万知子

一山をひるがへしたる葛嵐

柏 柏 真知

原爆忌砂動かして真水湧く

流山 土門なの子

湯上りの赤子ころがす夏座敷

香取 保坂 和郷

水論のうしろに女房ついてをり

福島田村 佐藤 安憲

フェリー着きどつと膨らむ島の夏

柏 小宮 富子

(応募数 五四〇組 一八四四句)

【ジュニアの部・小学生の部】

千葉県教育長賞

運動会ラストのバトンかけぬける

市川市立大柏小六年 塚田 翔将

千葉県芸術文化団体協議会長賞

夏の空くじらが虹をつくつてる

市原市立ちはら台桜小六年 海野 遥仁

千葉県俳句作家協会賞

まんげつにうつすらうつるうさぎたち

市川市立南新浜小五年 小山 和真

千葉県俳句大会委員長賞

たくさんのでんしゃにのれるなつやすみ

市川市立大和田小三年 安西 望

市川市教育長賞

いるんだなあまやどりするあおがえる

市川市立中山小四年 俵 快成

優秀賞

- 市川市立中山小四年 時澤 蘭
- 市原市立ちはら台桜小六年 田中 優海
- 市川市立塩浜学園六年 大坪 健人
- 市川市立大柏小六年 土居 愛楽
- 木更津市立祇園小三年 皆川 紬
- 木更津市立南清小三年 中村 美智
- 木更津市立南清小三年 藤村 一叶
- 木更津市立南清小三年 磯貝 美里
- 市川市立大柏小六年 富田 美咲
- 市川市立大柏小六年 及川 颯斗
- 木更津市立祇園小三年 長谷川孔紀
- 市原市立ちはら台桜小五年 石橋 芽依
- 千葉市立あすみが丘小四年 小峯 涉夢
- 千葉市立あすみが丘小四年 松田 叶羽
- 千葉市立あすみが丘小四年 高橋 莉乃

【ジュニアの部・中学生の部】

千葉県教育長賞

ボールからペンに持ちかえ挑む夏

市川市立第二中三年

唐木 葵

千葉県芸術文化団体協議会長賞

入道雲でつかい夢を届けてる

流山市立南流山中二年

一ノ宮実来

千葉県俳句作家協会会長賞

ぶらんこを蹴り上げ空に染まってく

流山市立南流山中三年

秋野 琴祢

千葉県俳句大会委員長賞

向日葵やペダルこぎ出す影三つ

市川市教育長賞

ひまわりが夢を抱いて空を見る

流山市立南流山中二年

稲垣 紘

優秀賞

- 市川市立第二中三年 吉澤 暁音
- 流山市立南流山中三年 鈴木 醒哉
- 流山市立南流山中二年 村山 実環
- 流山市立南流山中二年 伊藤 永珠
- 流山市立南流山中二年 篠原 久人
- 流山市立南流山中二年 伊藤帆七海
- 流山市立南流山中二年 池江 奏太
- 流山市立南流山中三年 稲垣 理央
- 流山市立南流山中三年 関根 統生
- 流山市立南流山中二年 鈴木 春翔
- 流山市立南流山中二年 柏崎 美空
- 流山市立南流山中三年 長澤 巧斗

(応募数 五六二句)

千葉県民芸術祭・俳句短冊展『秋を詠む』

千葉県俳句作家協会では、九月十六日から二十二日まで、千葉そごうギャラリーにおいて、俳句短冊展を行った。協会役員、理事の色紙や短冊、二十五点が、写真とともに展示された。出品作品は以下の通り。

- 縹雲見てゐてころ連れ去られ 能村 研三
- かりがねの越え来し山を思ふべし 増成 栗人
- 晩年は長丁場なり天の川 北川 昭久
- 多感期へ少年の黙ちちろ鳴く 加藤 峰子
- 脱稿の後は夜長の深海魚 石井紀美子
- 火を恋ふや一羽の鳥を見失ひ 高橋 健文
- 鳥の声溜めて橡の実橡の殻 祐 森司
- 千年の宝物ひらく里祭 鎌田 光恵
- 青々とトトロの森や小鳥来る 重城 弥生
- 梨さりさり汝は幸水か豊水か 飯田 晴
- 歩くほど遠くが見えて柿の秋 伊藤 素広
- 敗荷に矜持をたもつ花一輪 岩永 靖舎
- 半月やもう半分の恋しうて 葛西 茂美
- 溪もみじオペラ座の傾きであり 清水 伶
- 草の絮とんで子離れ親離れ 須田真里子
- 天辺の柿は御天道さまのもの 染谷 卓
- 日照雨してひかりの粒となる帰燕 滝口 滋子
- コントラバスの五臓にひびく秋日和 中村 世都
- おにぎりの海苔しつとりと野分あと 裨田 寿明
- なにげなくぬいてはみたがねこじやらし 平岡 育也
- 何か鳴る子のポケットや縹雲 藤井 稜雨
- 車座の姉さん被り秋収 古谷 誠司
- かりがねや低山力寄せ合へり 村上喜代子
- 草の海葉先に露の涛がしら 藤田 考成
- かく燃えて女人高野の紅葉かな 山岸 明子

# 千葉県俳壇二ニュース

## 俳人協会千葉県支部秋季吟行会

令和七年九月三十日、俳人協会千葉県支部秋季吟行会が、松戸市21世紀の森と広場にて行われた。句会場はその一角にある松戸市民会館。講演は村上喜代子支部長の「大野林火論」であった。

- 入賞句
- ① また違ふせせらぎに会ふ森の秋 加藤 峰子
  - ② 水の秋鷺は首より動きだす 三代川玲子
  - ③ 秋風や景色に水のある安堵 葛西 茂美
  - ④ 飛び火してあとに戻れぬ曼珠沙華 津高里永子
  - ⑤ 稲架晴やベンチに叩くゆで玉子 杉田 陽子
  - ⑥ 団栗一つポケットに講義待つ 前畑 桂子
  - ⑦ 樹を見る風を見る九月の声がする 祐 森司
  - ⑧ 堅穴住居九月の昼を深くする 増成 栗人
  - ⑨ 縄文の森を旅立つ草の絮 村田美穂子
  - ⑩ 秋興や堅穴住居など覗き 大野 崇文
- (飛田小馬々 報)

## 第七十五回館山市文化祭・館山市俳句連盟第七十八回俳句大会

第七十五回館山市文化祭・館山市俳句連盟第七十八回俳句大会(石崎和夫会長)を、十一月一日に菜の花ホールで開催しました。選者は、伊丹さち子、東 國人、庄司風樹、金丸謙一、石崎和夫、滝口照影、伊藤よし江、小形博子の八名。八十七名の投句者があり、上位入賞者と作品は、次の通りです。

- りです。なお、当日の出席者三十二名で、席題の句会を行いました。
- 兼題上位入賞者と作品
- ① サンガラスとりて一礼忠霊塔 柳引 明江
  - ② 木の実落つ音より旅の始まりぬ 佐久間由子
  - ③ 父の名を我に呼ぶ母新盆会 房日新聞社賞 中村 孝弘
  - ④ 寝ころべば幼き日々夏の夏豊 小林 正子
  - ⑤ 主基田にすつくと初穂立ちにけり 大沢美智子
- 席題入賞者と作品
- ① 返事なき上がり框へメモと柿 杉山ひろみ
  - ② 売られゆく牛がまた啼き冬近し 柏谷 艦水
  - ③ 割り算の余りを生きて熟柿食む 金光 浩彰
  - ④ 冬近し風のけ散らず波頭 櫻井 泰
  - ⑤ 善きことあとの一口柿の渋 山中 宏子
- 第七十二回柏市文化祭俳句大会
- 柏市俳句連盟・柏市文化祭実行委員会主催の第七十二回柏市文化祭俳句大会が令和七年十一月七日柏市中央公民館(ラコルタ柏)に於て開催された。参加者は一〇八名であった。上位入賞者(二十位までのうち十位まで)とその代表作は次の通り。
- ① 手賀沼を大盃として月渡る 山村 自游
  - ② 蟪蛄の死しても斧を地に置かず 藤岡 貞夫
  - ③ 暮早し忘れる事も生きる術 佐々木和子
  - ④ ふたりして時間長者や菊日和 山崎 純子
  - ⑤ 反抗期の棘ある無言胡桃の実 豊島 京子
  - ⑥ 宅配の「重いですよ」と今年米 弦巻喜久子

## 「鳴」通巻七〇〇号

加藤峰子主宰の「鳴」が八月号で通巻七〇〇号を迎えた。慶祝。主宰による「七〇〇号に寄せて」のほか、「特集」として同人、会員による「自選十二句集」、「座談会—鳴俳句の今とこれから」、「鳴俳句巻頭句」、「鳴」年表」等を収録。

## 「沖」創刊五十五周年記念号

能村研三主宰の「沖」が創刊五十五周年を迎え、通巻六六一号にあたる十月号が記念号として発行された。慶祝。主宰による随想、悦子夫人による特別エッセイ「『沖』と私」、「鷹の木工庫の55冊」、吉田政江、田所節子両氏による「登四郎・翔漁師の思い出」、「沖55周年記念号に残したい私の一句」、「沖年譜」を収録。沖五十五周年記念俳句コンクールについては別掲。

## 「獺祭」創刊百周年記念号

本田攝子主宰の「獺祭」が創刊百周年を迎え、通巻一一二四号にあたる十月号と一一二六号にあたる十二月号が記念号として発行された。慶祝。十月号には「獺祭年表」、「地域を支えた功労者」、「獺祭首都圏同人会の歩みと活動」、十二月号には主宰による「歴代主宰紹介」、「獺祭創刊百周年記念大会記」等を収録。

岡田 春人  
平野 善照  
齋 秀磨  
川崎 清明  
茶谷静子報

「野火」創刊九五〇号

菅野孝夫主宰の「野火」が十一月号で創刊九五〇号を迎えた。慶祝。主宰による「野火創刊九五〇号にあたり」、池田啓三名誉主宰「祝・野火九五〇号」のほか、同人、会員による「九五〇号記念作品集」等を収録。記念賞、エッセイ賞については別掲。

「音信」新会長に吉岡あきら氏

「音信」十一月号に、音信俳句会の運営体制が発表され、新たに吉岡あきら氏が会長に就任することとなった。十月十一日に、前会長の木村傘休氏は逝去された。

● 結社賞 ●

第五十二回響焰賞

- 響焰賞 「冬満月」石谷かずよ
- つよがりを冬満月に見透かされ
- 佳作一席 「一筋の水」戸田富美子
- 蛇口から一筋の水初明り
- 佳作二席 「わちゃわちゃと」大竹妙子
- わちゃわちゃと普通のくらし普通の死
- 佳作三席 「ジャングルジム」小林多恵子
- たんぼぼの絮ジャングルジムを発ち

沖五十五周年記念俳句コンクール

- 入選一位 「四万十川」栗坪和子
- 四万十川は大きく曲がり桐の花
- 入選二位 「四国巡礼」金光浩彰
- 初蝶や白衣は硬き霊山寺
- 入選三位 「癌を生く」矢野隆男
- 癌を生くと決する心木の芽時

第二十三回万象俳句賞

- 万象俳句賞 「尾を高く」穂苜照子
- 尾を高く猫陽炎を揺らし行く
- 次点 「一日の春野」辺野喜宝来
- 雨降つて止んで一日の春野かな
- 佳作 「京ことば」松永博子
- 京ことばの響く蔵元新酒酌む

令和七年度「好日三賞」「年度賞」

- 好日賞 「砂の城」鶴岡久美子
- 行く春の砂場に残る砂の城
- 次席 「短刀」高丸正顕
- 短刀の直刃ぞくつと憂国忌
- 佳作 「山川草木」重城弥生
- 山川草木今夜の零余子飯
- 青雲賞 「さくらの夜」今井礼子
- 私からわたしが抜けてさくらの夜
- 佳作 「心の器」笠原のり子
- 梅雨の入り心の器探り合ふ
- 佳作 「かなぶん」石井萬壽夫
- かなぶんは幸せ運んでくるらしい
- 白雲賞 「待針」梶間淳子
- 待針の色は鮮やか日脚伸ぶ
- 年度賞 「一頻りの落葉」寺内由美
- 祝福のごとく一頻りの落葉

創刊九五〇号エッセイ賞

- エッセイ賞 「アルバイト」栗原豊
- 準賞 「生きるということ」岩本功志
- 準賞 「父のノート」大谷のり子
- 令和七年「ろんど賞」
- ろんど賞 「農歴」久保田晋一
- 若水の薬効を浴ぶ臍かな

千葉県俳句作家協会

運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替 〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせて頂きます。

新入会員一句

- 踊りつつ宿に戻る五六人
- 虫の關心は耳のつきあたり
- 一茎によき風を待つ銀やんま
- 秋風鈴鳴る下町のアーケード
- 天指して秋蚕の糸吐かんむとす
- 歪なる蕪なれども愛しけり
- 帰る事なきふる里の柿を買ふ

- 千田 愛
- 島田恵美子
- 藤原 明美
- 原 達郎
- 山田 浩司
- 綾戸五十枝
- 大喜 京香

基金御礼 (令和七年七月二日以降)

石橋 道子 能美昌二郎 原 瞳子  
 北川 昭久 中村 世都 鎌田 光恵  
 祐 森司 高橋美智子 安部由美子  
 吉田 政江

(十一月四日現在二十四、五口四万九千円)

受贈誌より

あびこ(三八一号) 緑蔭の下をみならの揺れてをり 染谷 卓  
 いには(一月号) 神山に入る秋冷の襖橋 村上喜代子  
 沖(一月号) よく食べて癒ゆるに一途蓼の花 能村 研三  
 音信(一月号) 新走り蔵の粹なる庭作り 吉岡あきら  
 かずさホトトギス(六七七号) 紅葉冷天日淡く力無く 三枝かずを  
 響焰(一月号) 利き足はどうやら左虫の闇 松村 五月  
 草の実(十一月号) 一献二献百葉の長夜長なる 逸見 真三  
 雲(一月号) くわんおんは北向きもみぢ散らす風 飯田 晴  
 鴻(一月号) 榎の実はレモンの香りしてゐたる 谷口 摩耶  
 好日(一月号) 秋日入る置かれたままの父母の椅子 高橋 健文

鳴(一月号)

爽やかや登城のやうに潜る門 加藤 峰子  
 軸(一月号) 老いらくの夢の濃淡福寿草 秋尾 敏  
 瀬祭(一月号) 鐘の音の余韻しみじみ去年今年 本田 攝子  
 野火(一月号) 竜淵に潜み泥鰌は田の泥に 菅野 孝夫  
 初蝶(一月号) しばらくを霧に凭れて歩みをり 中山 和子

万象(一月号)

ハワイコナ挽く間に過ぐる初時雨 江見 悦子  
 ベガサス(二十四号) 唐辛子夕日たつぷり吊されて 羽村美和子  
 百鳥(一月号) 冬の雲輝き老軀励まさる 大串 章  
 るんど(一月号) 屋根ごとの雨音違ふ芭蕉の忌 すぎき巴里

事務局日誌

◆令和七年度 第二回理事会 (出席者26名)  
 日時 令和七年八月二十三日(土)  
 千葉市生涯学習センター 3f 特別会議室

- 議事
- 1 令和七年度第六十七回千葉俳句大会について
  - 2 令和七年度新緑交流について
  - 3 令和八年第十一回千葉俳句大賞について
  - 4 令和七年第三十九回及び第四十回協会

賞について

- 5 令和八年新春交流会について
- 6 千葉県俳句作家協会合同句集第十二集について
- 7 短冊展について
- 8 令和八年度春季吟行会について
- 9 会報「真木」215号について
- 10 その他 事務局報告会員異動

会員異動

新会員

山田 浩司 原 達郎 藤原 明美  
 島田 葉月 千田 愛 綾戸五十枝  
 大喜 京香  
 退会  
 三枝 青雲 佐藤 映二 久礼 隆志

訃報

須藤 義紀 様  
 八島 岳洋 様  
 木村 傘休 様

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

大幅な遅刊となりましたことをお詫び申し上げます。また、五月十七日(日)に行う予定の総会及び千葉県俳句大賞並びに俳句作家協会賞の贈賞式は五月十六日(土)に変更されました。お間違いないようご予定ください。(前北かおる)

歩いて俳句

創刊 鳥居三郎  
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一―七―一  
D1-1005  
電話 & FAX 047-487-7227



心を満たす俳句

「鴻」俳句会

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台一―四―一六谷口方  
電話 047-363-4508  
FAX 047-366-5110

◆誌代/年間九、〇〇〇円



主宰 増成栗人  
師系 角川源義 吉田鴻司

月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴 俳句会

代表 加藤 峰子  
創刊 田中 午次郎  
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 18,000円  
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方  
電話・FAX 043-225-7115  
<http://shigi-haikukai.com/>

自然と人間の一体化を目指す

月刊 好日

創刊 阿部 笈人  
主宰 高橋 健文

誌代 一年 一、二〇〇〇円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉二ノ七八  
好日俳句会

電話 047-713-1649  
振替 00250114127八

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/18,000円  
半年/9,000円  
見本誌 1冊 800円

沖 発行所  
〒272-0021 市川市八幡6-16-19  
TEL 047-334-4975  
FAX 047-333-3051  
振替 00170-6-161552

創刊50周年

軸 俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4  
電話 04-7122-3921  
Fax 050-5552-9110  
110円切手2枚で見本誌贈呈



俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五  
TEL 04-7182-4441

郵振替 0010014118907四

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いにはは INABA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)  
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211  
電話 047-458-1919  
Fax 047-458-1895  
振替 00280-9-131469  
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌

隔月刊 遊牧

名譽代表 塩野谷 仁  
代表 清水 伶

誌代 一年 六、〇〇〇円(送料共)

〒290-0003 市原市辰巳台東五―三―一六 大西方  
電話 0436-741-5344  
振替 002805110002七

遊牧俳句会